

● 6月21日(木) 晴 出発 ～ 福島県(いわき市・広野町・よつくら港)

・朝6時30分 朋子に見送られて出発、今年の北海道山紀行が始まった。

例年なら相模湖から圏央道・関越自動車道を通して新潟へ行くのだが、今年は東北の被災地を回ってから北海道へ渡るため東名高速に乗って常磐道をいわきへと向かった。毎日朝から混雑するので心配した東京料金所から首都高速はさほどの渋滞も無く、長い地下道を抜けて三郷から広い常磐道本線へ入ってからは快適なドライブとなった。途中何回かサービスエリアで休憩し10時にいわき中央ICを出た。

・今日最初に寄るところは、現在いわき市の合同庁舎へ出向しているT氏にお会いして労をねぎらうこと。T氏には箱根の補修隊でさんざんお世話になったので、今回の東北被災地を回るにあたり挨拶かたがたまず最初に訪ねることにしていた。いわき中央ICを出てすぐ近くにいわき市合同庁舎があり、訪ねるとすぐにT氏が元気な姿を現わした。久しぶりの再会だ。ロビーで仕事や生活など、被災地のことなど小一時間お話し、私もこれから被災地を回らなければならないので短時間の面会だったが記念に写真を撮って合同庁舎を後にした。



いわき市合同庁舎前でT氏

・さていよいよ初めて現実の被災地に足を踏み入れる。どんな様子なのだろうか？

まずいわき市の舞子浜へ向かった。ここは船村徹作詞・美空ひばりの歌「みだれ髪」で有名な塩屋岬の海岸だった。報道では見たり聞いたりしていたが、家が流され土台だけが整然と並んだ市街地跡を初めて目の当たりにした。ただ瓦礫は完全に取り除かれていて、取り残された土台にも草が生い茂り、可憐な花を咲かせていたりして、被災直後のような厳しさはない。その穏やかな眺めが一年以上も経った時の流れを感じさせる。



草が生い茂る被災地跡の土台

町の南に被災した中学校が建っていた。「いわき市立豊間中学校」。校舎はしっかりとしているの



鉄骨もへし曲げられた体育館



瓦礫が積まれた豊間中学校

だが、一階部分は津波で破壊されたのだろう、窓も入り口も板張りされている。隣にある体育館は完全に破壊され、鉄骨も曲がっていて津波の破壊力をまざまざと示していた。町の瓦礫をここに集めたのだろう、校庭には瓦礫が山と積まれていた。町跡にも学校にも復興を感じさせるような人影も気配も全く無かった。これからどうするのだろうか？

・塩屋崎灯台には通行止めで登らせてもらえなかったが、下にある「美空ひばり記念公園」に寄ってから今日の宿泊予定地の道の駅「よつくら港」へと向かった。海岸線を北上したが、道の両側の松並木は大きな損傷



塩屋崎灯台 と



美空ひばり記念碑

も無く整然と立っていた。陸前高田の松並木は全滅したと聞いているので、この辺りは津波の威力が陸前高田あたりに比べて小さかったのだろう。ということはこれから向かう三陸海岸の被害の大きさが想像を絶するものだろう。

・道の駅「よつくら港」は津波で流され現在再建中だが、隣の空き地に大きなテントを張って仮営業をしている。駅長の白土さんにお会いして、いろいろと苦勞話をお聞きした。「隣に作っている新駅がもうじき完成して正常営業が始められる。それまでこのテントの仮駅で頑張る」と復興への強い意欲に接して嬉しくなった。今日はここに泊めてもらうことにした。水道は遠くの蛇口からホースで引いてきた一口のみ、トイレはもちろん移動式簡易トイレだ。でも今回の紀行の第一泊目にふさわしい宿泊地となった。



テントで仮営業中の道の駅「よつくら港」

・まだ時間が早いので、すぐ北にある広野町を訪ねることにした。ここから北は津波の被害に加えて福島第一原発の放射能のため立ち入り禁止区域になり通行止めになっている。広野町はつい先日禁止区域が解除となり、町役場がもどって仕事を再開したばかりだ。役場は津波の被害も地震の被害もなかったため元のまま



戻ってきた「広野町役場」



広野町 高野病院

仕事をする事ができた。役場の担当者とお会いして、用意してきた「写真メッセージ」をお渡しし激励してきた。

・広野町にはぜひ訪ねたいところがある。朝日新聞に連載している「プロメテウスの罠に、広野町にある高野病院の病院事務長高野己保さんが震災直後から奮闘された様子が書かれていて感銘を受けた。高野病院にぜひ寄って見たいし事務長にお会いしたいと思っていた。丘の上

に建つこじんまりとして小奇麗な「高野病院」へ向かった。アポもとらずに突然伺ったし、もう診察時間も終わっていたので、事務長始め先生方は会議中とのことでお会いできなかった。受付の方に「写真メッセージ」をお渡しし、よろしくお伝えください頑張ってくださいと励ましの言葉を残して病院を後にした。

・病院を出るとすぐ下の民家で除染作業が行われていた。クレーン車、電源車、除染作業車など5台の車が除染作業にあたり、その車も横浜や釧路のナンバーがついている。日本各地から集められて来ているのだ。原発放射能汚染の深刻さを目の当たりに見せつけられた感じがした。



民家の除染作業が行われていた

・これで初日の予定はすべて終了、ゆっくり温泉にでも入りたいと思って近辺にある温泉を3か所ほど回ったが、どこも営業しておらず入浴出来ぬまま道の仮駅「よつくら港」に戻った。時間は4時過ぎでまだ日は高い。被災した漁船が山と積まれた港や、開業を急いで建設中の道の駅「よつくら港」など周辺をまわり、今日のまとめをしたりして19時過ぎに寝に着いた。練馬ナンバーのXトレイルその他数台の車が止まっていた。夜遅く雨が降りだした。



被災した漁船が積み上げられていた



営業再開に向け新築中の道の駅「よつくら港」